

2023.9.1

Dance Base Yokohama



愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama

パフォーミングアーツ・セレクション 2023 開催のご案内

～2023年9月、柿崎麻莉子×アリス・ゴドフリー、島地保武×環ROY、イリ・ポコルニによる新作を発表し、酒井はな、中村恩恵作品とともに国内4都市でツアーを開催～

パフォーミングアーツ・セレクションは、各劇場ごとに2～3作品をセレクトし、ショーケースとして上演する企画です。2022年の国内7都市での上演*に続き、**2023年は愛知県芸術劇場での上演後、高崎芸術劇場(群馬)、高槻城公園芸術文化劇場(大阪)、東京芸術劇場の4都市を巡ります。**

上演作品は、柿崎麻莉子×アリス・ゴドフリー、島地保武×環ROY、そしてイリ・ポコルニによる3つの新作のほか、ダンスの歴史にフォーカスすることでダンスの「継承」と「再構築」の2つの視点からプログラムを構成した公演「**ダンスの系譜学**」より**酒井はな×岡田利規作品、中村恩恵作品**の、合計5作品です。演目詳細は、3ページ目以降をご覧ください。

全作品及びパフォーミングアーツ・セレクションツアーの企画プロデューサーである**唐津絵理**（愛知県芸術劇場エグゼクティブプロデューサー/Dance Base Yokohama アーティスティックディレクター）は、全国で1,716人の方々にご覧いただいた本活動及び再演の重要性と意義を評価され、**令和4年度（第73回）芸術選奨 文部科学大臣賞 芸術振興部門 大臣賞を受賞しました。**

DaBYは、今後とも、愛知県芸術劇場、また国内外の劇場やフェスティバルと連携して、再演を通じたプロフェッショナルな環境整備をめざしていきます。

プロデューサーの唐津絵理やアーティストへの取材を承っております。詳細や取材をご希望の方は、下記担当までご連絡をいただけますようお願いいたします。

*個別の作品は海外2都市での上演も行っています。

TOUR OUTLINE / STAFF CREDIT

名称	パフォーミングアーツ・セレクション2023
日程	2023年9月16日(土)～10月22日(日)
会場	愛知県芸術劇場、高崎芸術劇場、高槻城公園芸術文化劇場、東京芸術劇場
詳細	https://dancebase.yokohama/event_post/pas2023-tour
主催	公演ごとに表に記載
企画・共同製作	愛知県芸術劇場、Dance Base Yokohama
制作協力	Dance Base Yokohama
舞台協力	愛知県芸術劇場
プロデュース/コンセプト・構成	唐津絵理 (愛知県芸術劇場/Dance Base Yokohama)
プロダクションマネージャー	世古口善徳 (愛知県芸術劇場)
舞台監督	河内崇
照明デザイン	伊藤雅一 (RYU)
音響デザイン	牛川紀政、岡直人

	公演日程	会場	上演プログラム	主催
	愛知県芸術劇場 × Dance Base Yokohama パフォーミングアーツ・セレクション2023 トリプルビル「目覚めの前のエクリチュール」			
愛知公演	9月16日(土) 14:00 / 18:30 9月17日(日) 14:00	愛知県芸術劇場 小ホール	イリ・ポコルニ『Night Shades』 柿崎麻莉子×アリス・ゴドフリー『Can't-Sleeper』 島地保武×環ROY『あいので』	愛知県芸術劇場、 Dance Base Yokohama
	高崎芸術劇場 × 愛知県芸術劇場 × Dance Base Yokohama パフォーミングアーツ・セレクション in Takasaki			
高崎公演	9月21日(木) 18:30	高崎芸術劇場 スタジオシアター	イリ・ポコルニ『Night Shades』 柿崎麻莉子×アリス・ゴドフリー『Can't-Sleeper』 中村恩恵『BLACK ROOM』/『BLACKBIRD』よりソロ	高崎芸術劇場 (公益財団法人 高崎財団)
	高槻城公園芸術文化劇場 開館記念 高槻城公園芸術文化劇場 × 愛知県芸術劇場 × Dance Base Yokohama パフォーミングアーツ・セレクション in Takatsuki			
高槻公演	9月30日(土) 17:00	高槻城公園芸術文化劇場 大スタジオ	酒井はな『瀕死の白鳥』/『瀕死の白鳥 その死の真相』 中村恩恵『BLACK ROOM』/『BLACKBIRD』よりソロ	公益財団法人高槻市文化 スポーツ振興事業団
	東京芸術祭 × 愛知県芸術劇場 × Dance Base Yokohama パフォーミングアーツ・セレクション 2023 in Tokyo			
東京公演	10月21日(土) 14:00 / 18:00 10月22日(日) 14:00	東京芸術劇場 シアターイースト	柿崎麻莉子『Can't-Sleeper』 島地保武×環ROY『あいので』	東京芸術祭実行委員会 [公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術劇場・アーツカウンシル東京)、東京都]、Dance Base Yokohama

* 愛知公演

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金 劇場・音楽堂等活性化ネットワーク強化事業(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)
独立行政法人日本芸術文化振興会

* 愛知県芸術劇場 × Dance Base Yokohama パフォーミングアーツ・セレクション2023

トリプルビル 目覚めの前のエクリチュール 関連企画 ワークショップ

会場: 愛知県芸術劇場 大リハーサル室

日程: 2023年9月11日(月)・9月12日(火)

詳細・申込: <https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/event/detail/001093.html>

【おおきくはやく動く仕掛け】14:00-15:45 講師: 島地保武

【柿崎麻莉子、アリス・ゴドフリーによるダンスワークショップ】19:30-21:00 講師: 柿崎麻莉子、アリス・ゴドフリー

PROGRAM

パフォーマンスアーツ・セレクション2023<トリプルビル「目覚めの前のエクリチュール」>では、9月16日(土)、17日(日)に、愛知県芸術劇場小ホールにて上演します。本公演では、柿崎麻莉子×アリス・ゴドフリー、島地保武×環ROY、イリ・ポコルニによる3作品を一挙上演いたします。

イリ・ポコルニはオランダのネザーランド・ダンス・シアターで長年ダンサーとして活躍後、現在は振付家として世界各国のカンパニーから委嘱を受けています。2021年より、DaBYレジデンスダンサーと3年をかけて協働し、2022年のショージングを経て、この度ようやく本番を迎えます。DaBYレジデンスアーティストの**柿崎麻莉子**は、バットシェバアンサンブル出身で、その後所属していたシャロン・エイヤールのカンパニーで出会った**アリス・ゴドフリー**とともに今回初めて創作を行います。共通の身体性を持つ2名による「不眠」をテーマとした作品に注目です。また、フォーサイス・カンパニー出身の**島地保武**とラッパーの**環ROY**は、2017年に発表した『ありか』(愛知県芸術劇場製作)に続く新作に臨んでおり、今回も言葉と身体を巧みに用いた創作に取り組んでいます。

トリプルビル「目覚めの前のエクリチュール」より

『Night Shades』

ネザーランド・ダンス・シアター (NDT)、キッドピポット(KIDD PIVOT) の元ダンサーで、近年は振付家として欧米のダンスカンパニーで活躍するイリ・ポコルニとDaBYが2020年より3年の月日をかけて取り組んできた新作。2021年2月より、DaBYのレジデンスダンサーらトリサーチ・クリエーションを重ねた、自然と人間の繋がりをテーマにした作品。



演出・振付: イリ・ポコルニ

出演: 青柳潤*, 佐藤琢哉, 戸田祈*, 冨永藍音*, 島中真濃*, 堀川七菜*
(*DaBYレジデンスダンサー)

音楽: デヴィッドソン・ジャコネロ

リハーサルディレクター: 小尻健太 (DaBYレジデンスアーティスト)

『Can't-Sleeper』

バットシェバ・アンサンブル出身で今世界で注目を集める振付家のシャロン・エイヤール率いるL-E-Vダンスカンパニーのもとで活動してきた柿崎麻莉子とAlice Godfrey (元NDT)が、心地よい「眠り・不眠」をテーマにした新作を上演します。

演出・振付・出演: 柿崎麻莉子 (DaBYレジデンスアーティスト)

振付・出演: アリス・ゴドフリー

出演 *東京公演のみ: 栗朱音 (DaBYレジデンスダンサー)



©Yuichiro Noda

『あいので』

世界的な振付家ウィリアム・フォーサイスとの活動を初め、国内外で作品を発表してきたダンサーの島地保武と、音楽を軸にパフォーマンスやインスタレーションといった領域で活躍するラッパーの環ROYが、前作『ありか』を経て更なる融合。

体と言葉の交点に見えてくる荒涼とした風景は、誰の心の中か現実か。

演出・振付・出演: 島地保武 (DaBYゲストアーティスト)

演出・音楽・出演: 環ROY (DaBYゲストアーティスト)

ドラマトゥルギー: 長島確



愛知県芸術劇場製作『ありか』より

「ダンスの系譜学」より

世界中のバレエダンサーが踊り続けてきたフォーキン原作による『瀕死の白鳥』。本公演では日本を代表するダンサーの酒井はなが、演劇作家の岡田利規と取り組んだ新解釈バージョンを上演。白鳥の死因に迫ることでバレエの様式を解体し、現代のパフォーミングアーツの新たな局面を切り開く。

『瀕死の白鳥』

ミハイル・フォーキン原型 酒井はな改訂

出演: 酒井はな

チェロ: 四家卯大

音楽: サン=サーンス「動物の謝肉祭」から「白鳥」

初演: 1907年(マリインスキー劇場 [サンクトペテルブルク、ロシア]) もしくは 1905年(貴族会館ホール)



『瀕死の白鳥 その死の真相』

演出・振付: 岡田利規

出演: 酒井はな

編曲・チェロ: 四家卯大

音楽: サン=サーンス「動物の謝肉祭」から「白鳥」よりアレンジ



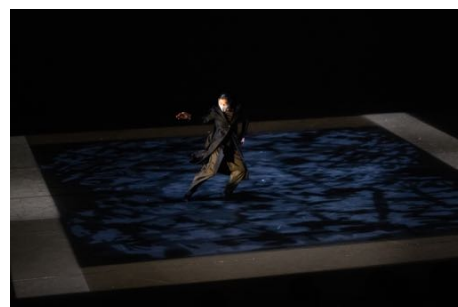
言葉にならなかった声に耳を澄ませた中村の新作『BLACK ROOM』と、キリアンが中村のために振り付けた『BLACKBIRD』よりソロの場面。闇の中から生れ落ちた新たな生命を想起するような連作として、2作品を併せて上演します。

『BLACK ROOM』

振付・出演: 中村恩恵

音楽: デイルク・ハウブリッヒ

衣裳: 串野真也



『BLACKBIRD』よりソロ

振付: イリ・キリアン

出演: 中村恩恵

音楽: ジョージアの伝統的な音楽

*2001年初演、日本、オランダ



PROFILE



©Ryu Endo

『あいのて』

島地保武 Yasutake Shimaji (DaBY ゲストアーティスト)

2006～15年ザ・フォーサイス・カンパニーに所属。酒井はなとのユニット Altneu 〈アルトノイ〉を結成。資生堂第七次椿会メンバーになりパフォーマンスに加えインスタレーション作品を展示。近年は、愛知県芸術劇場制作での環ROYと共作共演の『ありか』、フランス国立シャイヨー劇場のレジデンスプログラム（ファブリック・シャイヨー）に日本人で初めて選ばれ滞在制作をし『Oto no e』を創作。神奈川県芸術劇場KAAT制作で映像作家さわひらきと共に舞台作品『Silts』を創作しAltneuで出演など。愛知県芸術劇場製作『ありか』で環ROYと共演し、多数ツアーを行う。

**環ROY Tamaki Roy (DaBY ゲストアーティスト)**

1981年、宮城県生まれ。主にラップを用いた音楽作品の制作を行う。これまでに6枚の音楽アルバムを発表、国内外の様々な音楽祭に出演。近年は、パフォーマンス『ありか』（愛知県芸術劇場制作）パリ日本文化会館（20年）、絵本『ようようしょうてんがい』福音館書店（20年）、展示音楽『未来の地層』日本科学未来館（19年）、NHK教育『デザインあ』コーナー音楽（17年）などの制作を行う。ミュージックビデオ「ことの次第」が第21回文化庁メディア芸術祭にて審査委員会推薦作品へ入選。

『Can't-Sleeper』

柿崎麻莉子 Mariko Kakizaki (DaBYレジデンスアーティスト)

香川県出身、元新体操選手。Batsheva ensemble Dance Company（2012-2014）に所属後、L-E-V Sharon Eyal|Gai Behar（2015-2021）に所属し、世界各国で公演・WS指導を行う。2011年韓国国際ダンスフェスティバル金賞、2013年度香川県文化芸術新人賞、2014年Israel Jerusalem Dance Week Competition、2020年日本ダンスフォーラム賞、2021年日本ダンスフォーラム賞など受賞。2021年カルチャーセンター「beq」を熊本にOPENし、文化や芸術をカジュアルに楽しめる場を目指して活動中。

「GAMAMA」を主催し、オンラインWSなどを実施。Gaga指導者。

鈴木竜『When will we ever learn?』などに出演。



©morikohga

**アリス・ゴドフリー Alice Godfrey**

1994年、ナミビアのウィントフック生まれ。南アフリカ共和国のケープタウンで育ち、そこでダンスのトレーニングを受け、高校卒業後はカナダ国立バレエ学校のポストセカンダリープログラムに参加。アーティストックディレクターであるメイビス・ステインズ氏の指揮のもとで学ぶ。

2014年にネザールランド・ダンス・シアターの第2カンパニーであるNDT2で初めてプロのポジションに就き、2017年に第1カンパニーであるNDT1へ移籍。2019年以降、振付家であるシャロン・エイアル氏のダンスカンパニーL-E-Vで活動。またフリーランスのアーティストとして様々なプロジェクトに取り組んでいる。



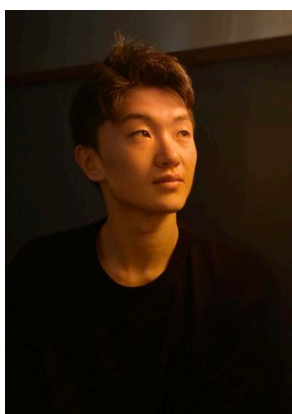
『Night Shades』

イリ・ポコルニ Jiří Pokorný

1981年チェコ、プラハ出身。プラハ国立コンセルヴァトワール卒業後、ラテルナ・マジカ・ダンスカンパニー（プラハ）に入団。2003年ネザーランド・ダンス・シアター2(NDT2)に移籍、2006年ネザーランド・ダンス・シアター1(NDT1)に昇格し、Jiri Kylian、Mats Ek、Ohad Naharin、Paul Lightfoot、Sol Leon、Crystal Piteなどの数々の有名な振付家の作品を踊る。一方で、毎年行われている振付ワークショップ“Switch”にて短編作品の創作を機に振付を始め、現在ではNDT2、バーゼルバレエ劇場、ノースウェスト・ダンス・プロジェクト、マンハイム歌劇場、ブタペスト・ダンス・シアター、コルゾプロダクションなど数多くのカンパニーへ振付作品を委託される。近年では、ハーグ王立音楽院、ジュリアード音楽院、NDT(夏期講習)などに赴き定期的に指導を行う。またコルゾシアター主催の若い振付家へ向けた「The Pioneer Project」を企画し、教育プログラムを監修している。

『Night Shades』 出演

青柳潤*



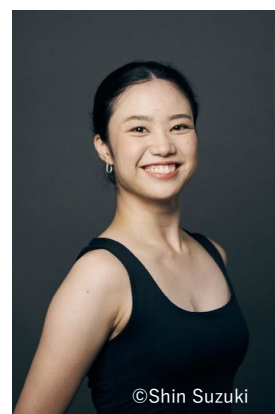
佐藤琢哉



戸田祈*



富永藍音*

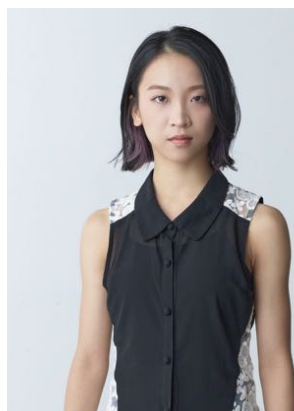


『Night Shades』 出演

畠中真濃*



堀川七菜*



『Can't-Sleeper』 出演（東京公演のみ）

栗朱音*



*DaBYレジデンスダンサー

『瀕死の白鳥 その死の真相』



©Tomohide Ikeya

酒井はな Hana Sakai (DaBYゲストアーティスト)

アメリカのシアトルに生まれ、神奈川県鎌倉市で育つ。1979年からバレエを始め、畑佐俊明に師事。橘バレエ学校、牧阿佐美バレエ団に入団し、14歳でキュービット役に抜擢、18歳で主役デビュー。1997年新国立劇場バレエ団設立と同時に移籍、主役を務める。2007年劇団四季の『コンタクト』と09年『アンデルセン』にゲスト出演。2013年ユニットAltneu〈アルトノイ〉として、島地保武との共同創作を本格的に開始する。

1996年村松賞新人賞、舞踊評論家協会新人賞、1997年中川鋭之助賞、1998年芸術選奨文部大臣新人賞、2000年服部智恵子賞、2008年舞踊批評家協会賞、2009年芸術選奨文部科学大臣賞、2015年ニムラ舞踊賞、2017年紫綬褒章、2021年第69回舞踊芸術賞など。



©Kikuko Usuyama

岡田利規 Toshiki Okada (DaBYゲストアーティスト)

演劇作家／小説家／チェルフィッチュ主宰

1973年横浜生まれ、熊本在住。活動は従来の演劇の概念を覆すとみなされ国内外で注目される。『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞。小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』で第2回大江健三郎賞を受賞。16年よりドイツ有数の公立劇場ミュンヘン・カンマーシュピールのレパートリー作品演出を4シーズンにわたって務め、20年『The Vacuum Cleaner』が、ドイツの演劇祭Theatertreffenの“注目すべき10作品”に選出。18年より『プラータナー：憑依のポートレート』をバンコク、パリ、東京にて上演。同作で第27回読売演劇大賞 選考委員特別賞を受賞。



四家卯大 Udai Shika (DaBYゲストアーティスト)

ロック、ポップス、ジャズ、クラシック、即興音楽と多彩なジャンルで活躍する土俗的チェリスト。

日本の商業音楽界を支えるトップ・ストリングスアレンジャーのひとり。

近年では Bank Band、Mr.Children、ONE OK ROCKをはじめ、多数のロックバンドにストリングス担当として演奏&アレンジで参加。

2019年10月にはバッハの無伴奏チェロ組曲に挑戦した「たいようの谷」をリリース。オリジナル曲やクラシックに即興を取り入れた演奏スタイルも得意とする。

<http://udai66.com/>

『BLACK ROOM』



©Tadashi Okochi

中村恩恵 Megumi Nakamura (DaBYゲストアーティスト)

ローザヌ国際バレエコンクールにてプロフェッショナル賞受賞後渡欧。モンテカルロ・バレエ団等を経て、イリ・キリアン率いるネザラント・ダンス・シアターに所属し、世界を牽引する振付作家達の創作に携わる。退団後は、キリアン作品のコーチも務め、パリ・オペラ座はじめ世界各地のバレエ団や学校の指導にあたる。2007年より、活動拠点を日本に移し振付家としての活動を精力的に展開。Noism、Kバレエカンパニー、新国立劇場バレエ団等に作品提供するなど活躍の場を広げている。2022年よりDance Base Yokohamaのゲストアーティストとして後進の育成に携わる。舞踊批評家協会新人賞、芸術選奨文部科学大臣賞、服部智恵子賞、紫綬褒章等多数の受賞歴を持つ。

取材対応者 PROFILE



公演企画プロデューサー：唐津 絵理 Eri Karatsu

愛知県芸術劇場エグゼクティブプロデューサー

DaBYアーティストティックディレクター

お茶の水女子大学文教育学部舞踊教育学科卒業、同大学院人文科学研究科修了。舞台活動を経て、1993年より日本初の舞踊学芸員として愛知芸術文化センターに勤務。2000年に所属の愛知県文化情報センターで第1回アサヒ芸術賞受賞。2021年より現職。2010年~16年あいちトリエンナーレのキュレーター（パフォーミング・アーツ）。大規模な国際共同製作から実験的パフォーマンスまでプロデュース、招聘した作品やプロジェクトは200を超える。

DaBY設立を機に、ダンス、パフォーミングアーツ領域全体の活動環境の整備、アーティスト・ダンサー・スタッフの権利擁護、観客・市場拡大施策等に積極的に関わる。上記の取り組みが、芸術振興の意味や方法を改めて問い直す契機として評価を受け、令和4年度(第73回)芸術選奨文部科学大臣賞（芸術振興部門）受賞。著書に『身体の知性』等。

Dance Base Yokohama

ダンスを中心とするパフォーミングアーツ作品の創作を目的に、地域や文化芸術を愛する方のために開かれたダンスハウスとして2020年6月横浜を拠点に設立された。ワークショップや実験的なトライアウト公演の企画・運営、海外アーティストやカンパニー招聘、ダンスアーカイブ事業などを行い、振付家やダンサーのみならず、さまざまな分野のクリエイター、批評家、研究者、プロダクションスタッフ、そして観客の交流拠点をめざしている。

アーティストティックディレクターを唐津絵理（愛知県芸術劇場エグゼクティブプロデューサー）が務め、ダンス、パフォーミングアーツ領域全体の活動環境の整備、アーティスト・ダンサー・スタッフの権利擁護、観客・市場拡大施策等を展開する。

2020年「ダンスを社会にひらく」コンセプトが評価され、2020年度グッドデザイン賞受賞。2021年ロゴマークが東京TDC賞2021に入選。